

《学校教育目標》

人と人をつなぐ

【や】やさしい心をもつ子 【わ】わかる・できる・考える子 【た】たくましくげんきな心と体をつくる子

《研究主題》

進んで学ぶ子供の育成

～「学びのプロセス」の充実による国語科と総合的な学習の時間の有効的な関連～

1 本校の研究の指針

本校は、「進んで学ぶ子供の育成」に向けて研究を進めている。

本校児童の実態

- 知識・技能面での習熟度が高い。
- 自分の考えを書いたり、意見を述べたりすることができる。
- △相手意識をもって話したり根拠をもって考えを述べたりすることに課題がある。
- △知識や技能を獲得することに喜びを感じることができるが、それらの力を生活の中で発揮する経験が少ない。

求められる教育（「小学校学習指導要領解説 総則編」より）

小学校学習指導要領解説総則編では、学習の基盤となる資質・能力として、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等が挙げられている。

「言語能力」については、「言葉は、児童の学習活動を支える重要な役割を果たすものであり、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となるものである。教科書や教師の説明、様々な資料等から新たな知識を得たり、事象を観察して必要な情報を取り出したり、自分の考えをまとめたり、他者の思いを受け止めながら自分の思いを伝えたり、学級で目的を共有して協働したりすることができるのも、言葉の役割に負うところが大きい。したがって、言語能力の向上は、児童の学びの質の向上や資質・能力の育成の在り方に関わる重要な課題として受け止め、重視していくことが求められる。言語能力を育成するためには、（中略）特に言葉を直接の学習対象とする国語科の果たす役割は大きい。」とされ、「情報活用能力」については、「将来の予測が難しい社会において、情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでいくためには、情報活用能力の育成が重要となる。」とされている。また、「問題発見・解決能力」については、「物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程を重視した深い学びの実現を図ることを通じて、各教科等のそれぞれの分野における問題の発見・解決に必要な力を身に付けられるようにするとともに、総合的な学習の時間における横断的・総合的な探究課題や、特別活動における集団や自己の生活上の課題に取り組むことなどを通じて、各教科等で身に付けた力が統合的に活用できるようにすることが重要である。（中略）各学校においては児童の実態を踏まえ、学習の基盤作りに向けて課題となる資質・能力は何かを明確にし、カリキュラム・マネジメントの中でその育成が図られるように努めていくことが求められる。」とされている。



本校の研究の指針

国語科と総合的な学習の時間の有効的な関連を図ることで研究主題の達成を目指していく。

有効的な関連を図るためには、双方にとって必要感のある学びが保証されなければならない。また、魅力ある学習活動の設定が「進んで学ぶ」原動力となる。自ら課題を設定し、豊かな体験活動を経験しながら、試行錯誤を繰り返して学んでいく姿こそが本校の求める「進んで学ぶ」児童像である。

これらのことを踏まえて、国語科と総合的な学習の時間の有効的な関連を図っていくことで、研究主題が達成できるだろう。

2 国語科と総合的な学習の時間における指導の指針

国語科	総合的な学習の時間
<p style="text-align: center;">言語能力の育成</p> <p>(1) 魅力ある言語活動の設定 指導事項の達成に向けて児童が夢中になって取り組める言語活動を設定する。</p> <p>(2) 探究的な学びを支える言語能力の育成 情報を理解したり、文章や発話により表現したりするための力として、情報を多面的・多角的に精査し構造化する力、言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力、言葉を通じて伝え合う力、構成・表現形式を評価する力、考えを形成し深める力を高める。</p>	<p style="text-align: center;">情報活用能力の育成</p> <p style="text-align: center;">問題発見・解決能力の育成</p> <p>(1) 身近な教材と繰り返し関わる場の設定 自分事として学習を進めることができるよう児童にとって身近な教材を扱う。また、それらと繰り返し関わる場を設定する。</p> <p>(2) 探究的な学び方の育成 ①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現という学習過程を計画的に組み、問題や課題に対して、児童自らで学びを進め、もっと知りたい、学びたいという意欲をもてるよう手立てを講じる。</p>
<p>(1) 有効的な関連を見越したカリキュラム・マネジメント 年間指導計画の中で、国語科の単元での学びが必要となる場面を考え、カリキュラム・マネジメントを行う。 低学年は、国語科の力を他教科で発揮する単元を意図的に設定、中学年・高学年は国語科での言語活動を総合的な学習の時間と絡めて設定、など、単元同士の関連性を学年で検討し、計画プランに反映させ、年度末に訂正の上、実践プランを完成させる。</p>	

3 研究仮説

「学びのプロセス」を意識した一連の学習活動を繰り返し設定し、
国語科と総合的な学習の時間の有効的な関連を図ることで、進んで学ぶ子供が育つだろう。

4 今年度の研究の重点

本校が目指す「進んで学ぶ子供」とは、「自ら課題を設定し、豊かな体験活動を経験しながら、試行錯誤を繰り返して学ぶ子供」である。

このことを踏まえ、研究仮説を実証するための具体的な手立てとして、「学びのプロセス」(=「やわたスタイル」)を設定している。「学びのプロセス」とは、学習過程における、「課題設定」→「情報収集」→「試行錯誤」→「まとめ」という4つの段階のことを指す。これらを意図的・計画的に学習活動に組み込んでいく。これは、どの教科・領域においても実施可能であり、こうした「学びのプロセス」の定着を図ることで、国語科と総合的な学習の時間が有効的に関連し、進んで学ぶ子供が育つと考える。

千葉県教育委員会からは「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のための手立てとして『『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』が提示されている。

本校の「学びのプロセス」とこのモデルプログラムとを一致させることで、教師がより実践しやすい手立てとなるだろう。

(1) 「進んで学ぶ子供」を育成する「学びのプロセス」の明確化

各段階での 「進んで学ぶ子供」の姿	国語科	総合的な学習の時間
①自ら課題を設定する ・疑問をもつ ・既習の内容や方法を振り返る ・課題を明確にする	○学習のゴール(言語活動)の設定 ○単元計画の作成	○課題の設定
②豊かな体験活動しながら 情報を収集する ・解決の見通しをもつ ・情報を収集し調べる ・自分の考えを形成する ・思いや考えを基に創造する	○教材からの学び ○知識及び技能の習得 ○思考力、判断力、表現力等高める	○情報の収集
③試行錯誤しながら学ぶ ・自分の考えを伝える ・友達と互いに学び合う ・新たな考えに気付く	○教材からの学びを発展させた言語活動 ○知識及び技能の習得 ○思考力、判断力、表現力等高める	○整理・分析
④学ぶことよさに気付いたり、 新たな学びにつなげたりする ・思考の過程を振り返る ・学んだことをまとめる ・学んだことを確実に身に付ける ・新たな疑問をもつ	○単元の振り返り ○単元で習得した力を汎用性のあるものとする	○まとめ・表現

「進んで学ぶ子供」の究極は、教師の指示や助言がなくとも学習を進められる子供たちである。そのためには、基本となる学習過程を身に付けておく必要があると考える。これを全ての教科等で教師も子供も意識することで、「学びのプロセス」の明確化を目指したい。活動内容によっては、一つとばしたり、一つ前に戻ったりして学習を進めていく場合も考えられる。

この「学びのプロセス」の明確化は、「学習のゴール」の明確化とも言える。しかし、学習のゴールのみならず、その過程を重視し、活動を充実させていくことが重要であることから、『学びのプロセス』の明確化とした。教師が活動の方向性やねらいを焦点化し、この「学びのプロセス」の明確化を図ることで、子供たちが学習の流れを意識して活動できるようにしていく。

低学年の国語科では、「学びのプロセス」における「学習のゴール」の確実な定着を目指す。具体的には、1年生のうちに、「学習のゴール」として考えられる多様な言語活動を教師側から提示し、一通り経験させる。2年生ではそれらの中から児童が言語活動を選択できるよう指導する。低学年のうちに基本的な言語活動を網羅することにより、中学年以降の総合的な学習の時間の課題設定に生きると考える。

中学年・高学年の総合的な学習の時間においては、4つの段階の中で特に、課題設定に重点を置く。(研究授業については、どの部分を取り上げてよい。)教材と出会い、自分の力の付き具合や教材の特性、問題から課題を設定することができる児童を育成する。また、中学年の総合的な学習の時間の単元については、年間で2つ取り扱うことも可とする。後期は前期の経験を生かして、自分たちで課題を設定し、前期と同じように「学びのプロセス」を繰り返すことができるよう指導する。高学年においては、中学年で経験から課題設定をし、自分たちで学習計画を立て実行に移す。大きなテーマの中で何度も「学びのプロセス」が繰り返されることで「学びのプロセス」の定着につながると考える。

(2) 「学びのプロセス」を充実させるための手立ての例

各段階での「進んで学ぶ子供」の姿	国語科		総合的な学習の時間
①自ら課題を設定する	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のゴールを自ら設定させる ・自分たちの力の付き具合から単元の学習計画を立てさせる 	学びの自覚 ○今できること できないこと できるようになりたいこと ○学習計画の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の素材を取り上げる ・実生活、実社会との関わりを意識させる ・共通体験を設定する
②豊かな体験活動をしなが ら情報を収集する	<ul style="list-style-type: none"> ・教材との出会いの中で、自分の考えをもたせる 	教材、言語活動への理解の深化 ○教材への理解、課題解決 ○言語活動の深化 (質を高める)	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート、インタビュー、見学、体験等、ものや人、ことと関わらせることで自分の考えをもたせる
③試行錯誤しながら学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動を通して、自分の思いや考えを伝えさせる ・友達との交流の中で、思いや考えを広げさせる 	これまでの学習への再度の問いかけと汎用化 ○考えの形成、再度の問い ○意見交流による考えの再考	<ul style="list-style-type: none"> ・思考ツールを使った情報整理の時間を設定する ・ペアやグループでの意見交換をさせる ・大人からの意見をもらう場を設定する
④学ぶことのよさに気付いたり、新たな学びにつなげたりする	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返らせることで、獲得した力を今後の活動に生かせるようにする 	学習の振り返りと学びの自覚 ○今後の学習への汎用化 ○新たな問いをもつ (今回の単元での学びの自覚)	<ul style="list-style-type: none"> ・手段や相手を選んで伝えさせる ・これからの自分たちの生活に生かせる意識付けをする(まとめさせる)

(1) で「学びのプロセス」が明確になったとしても、それだけでは「進んで学ぶ子供」は育成できない。その「プロセス」を通過する中で、学ぶことの楽しさや意義を感じることが出来るような経験がなければ、同じプロセスを辿ろうとはしないからだ。

そこで、一つ一つのプロセスを充実させるため、具体的な学習活動をイメージし、それぞれに応じた手立てを取る必要がある。こうした手立てを意図的・計画的に組み込むことで、次の「学びのプロセス」へ確実につながっていく。また、「深い学び」へ導いていくことにもつながる。

このように、国語科と総合的な学習の時間の学習において、「学びのプロセス」を意識した一連の学習活動を繰り返し設定する。この一連の学習活動の一致を有効的な関連と捉え、有効的な関連が保証されれば、「進んで学ぶ子供」が育つと考える。目指す子供の姿を意識し、教師が細やかな手立てを取ることで、研究主題の達成を目指す。

それらの達成状況を計る見取りの方法としては、本校が作成している「振り返りシート」を活用する。振り返りシートには、「学びのプロセス」に沿って、それぞれの段階でつきたい力を、児童の発達段階や単元に合わせた言葉で項目化する。数値とコメントによる自己評価シートである。国語科と総合的な学習の時間のそれぞれにおいて、単元の区切りにこの振り返りシートによる自己評価を実施することで、学習過程において子供がどんな力を獲得できたかと自覚しているのかを知ることができる。それらを教師が把握し、評価、分析することで、次の「学びのプロセス」や手立てを計画し、学習を進めていく。

また、振り返りシートには、「進んで学ぶ子供の育成」という研究主題の達成度を見取る項目として、「学びのプロセス」に沿った項目の他に「主体的に学習に取り組む態度」についての項目を一つ以上組み込むこととする。その達成度によって、「進んで学ぶ子供」の育成が図られたかを検証していく。

5 評価規準表（つきたい力） *今後、各部会で検討を図り、随時更新していく。

総合的な学習の時間

評価観点		中学年	高学年
知識・技能	学びの中心的知識	○探究的に学習する中で得た知識をつなげたり、考えを組み合わせたりして、探究課題に関する概念をつかんでいる。	○実社会や実生活の問題や疑問の中から、一人一人が解決したい課題を見付けたり、解決の方法や手順について、見通しをもって計画を立てたりしている。
	学びを支える言語技能	○人の話や資料から、言葉によって情報を的確に理解し、ワークシートにまとめたり、感想や考えを書いたりしている。	○実社会や実生活の問題や疑問の中から、一人一人が解決したい課題を見付けたり、解決の方法や手順について、見通しをもって計画を立てたりしている。
	学びのプロセスの成果	○自分の力の高まりを自覚したり、学習が生活とつながっていることを認識したりしている。	○実社会や実生活の問題や疑問の中から、一人一人が解決したい課題を見付けたり、解決の方法や手順について、見通しをもって計画を立てたりしている。
思考・判断・表現	課題設定力	○身近な地域や自分の生活の問題や疑問の中から、一人一人が知りたいことや解決したい課題を見付けたり、解決に向けて計画を立てたりしている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;">問題や疑問（学級） ⇒ 課題（個人）</div>	○実社会や実生活の問題や疑問の中から、一人一人が解決したい課題を見付けたり、解決の方法や手順について、見通しをもって計画を立てたりしている。
	情報収集力	○課題解決に必要な情報をどのような方法で集めればよいか判断している。 〈国語科→質問する〉	○課題解決に必要な情報を目的に応じた収集方法で集めている。 〈国語科→インタビューする〉
	情報活用力	○必要な情報を 選択 し、共通点や違いに気付いたり、 比較 したり 分類 したりして、考えをまとめたりしている。 〈国語科→辞書・引用・出典〉	○必要な情報を 整理 し、共通点や違いを見付けて関係や傾向を明らかにしたり、 情報と情報 を関係付けたりして、 情報の再構成 をしている。
	表現力	○自分の考えが伝わるように、言葉や表現方法を工夫して表現している。 （文・絵・図・表・手紙など） 〈国語科→報告文・説明文〉	○目的や意図に応じて、伝えたいことが伝わるように、 適切な表現方法 を選択し、言葉を工夫して表現している。 （ICTやメディアを活用など） 〈国語科→意見文・提案文〉
主体的に学習に取り組む態度	主体的に取り組む力	○課題解決に向かって、方法を工夫し、あきらめずに わくわく しながら取り組もうとしている。	○課題解決に向かって、 試行錯誤 し、 自信 や こだわり をもって取り組もうとしている。
	協働して取り組む力	○自分や友達、周囲の人と 協力 して課題解決に取り組もうとしている。	○自分や友達、周囲の人のよさを生かし、協力して課題解決に取り組もうとしている。
	社会とつながる力	○課題と自分自身とをつなげて、学んだことを生活に生かそうとしている。	○課題と自分の生活や自分自身とをつなげて、学んだことを生活や世の中に生かそうとしている。

国語科

評価観点	低学年	中学年	高学年
知識・技能	※「学習指導要領解説 国語編」に基づいて設定する。		
思考・判断・表現			
主体的に学習に取り組む態度			